

ベトナムFW 8/3~8/5 平和班報告

1日目(平和村・現地学生との交流・ドク氏との夕食会)



国際科平和班代表4名(森田、赤井、平井、渡邊)はホーチミン市にて研修を行いました。ツーズー病院内にドイツの援助で設置された『平和村』を訪れ、枯葉剤の影響と思われる障がいや苦しむ子どもたちと交流しました。プレゼントした折り紙の鶴にとっても喜ん



でくれました。看護師長の「この施設に来て現状を知ってもらえてうれしい」との言葉に胸を打たれました。

その後、ホーチミン師範大学3年生のニャンさんと英語による意見交換会を実施しました。長崎原爆、核兵器廃絶、領土問題、平和教育等について意見交換を行いました。将来への明確なビジョンを持ち、自国の発展に貢献したいというベトナムの若者達の強い意欲を感じました。

夕食の席にてドク氏と懇談会を行いました。ドク氏は結合双生児として生まれ、ベトナムと日本の医療チームによる分離手術を経て、現在ツーズー病院の事務を担当されています。来日経験も多く、日越友好のシンボルとして活躍されています。ドク氏は「病院であの子達とふれあってもらい感謝しています」「若者には社会での成功に向けた努力を継続し、将来何かの形で支援していただきたい」と述べられました。肢体不自由児を支え続けるドク氏のひとつひとつの言葉に、子どもたちへの思いやりと強い使命感を感じました。

2日目(クチトンネル・戦争証跡博物館)

ベトナム戦争の重要拠点であったクチ地区のクチトンネルと戦争証跡博物館で研修を行いました。凄惨な写真・展示物・戦争遺構を目にして、人道主義とは何なのかを深く考えました。当時世界中から届けられた平和を訴えるポスターの展示から、課題研究への新たな着想が得られました。訪れていた多くの外国人観光客と「世界の平和と共栄」への思いを共有しました。



訪れていた多くの外国人観光客と「世界の平和と共栄」への思いを共有しました。

3日目(ノンラム農林大学)

長崎大学水産学部にて在籍された経歴があるティン教授を訪ね、エビ養殖について英語でインタビューを実施しました。「エビ養殖ですべての貧困を解決することはできないが、寄生虫やウイルスによる被害を少しでも減らしたい」と述べられました。



マングローブ林、水産資源、日本との貿易等多岐にわたる質問に丁寧に回答いただきました。また院生が研究施設を案内してくださり、サンゴの死骸を用いた水ろ過についても学びました。

この3日間の研修を今後の課題研究に生かしていきます！

